

卵巣癌に対する妊孕性温存治療に関する実態調査に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年12月3日～2020年3月31日

〔研究課題〕 日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査

〔研究目的〕 小児期および通常成人女性の谷間である思春期および若年成人世代である AYA(adolescents and young adults:15歳から40歳前後までの女性)世代に着目し、この世代における卵巣癌の妊孕性温存治療について調査して、その実態と成績とを解析することが目的です。

〔研究意義〕 AYA 世代の卵巣癌治療前情報、治療方法、妊孕性温存方法、治療後妊娠転機等を解析し、その治療方法の適否を検討して、新たな治療方法の案出に際しての資料にします。

〔対象・研究方法〕 当院で2009年1月から2013年12月までに診療を受けたAYA世代の卵巣癌患者さんと、妊孕性温存治療を受けた方が対象です。過去の診療録から、治療前後での月経の変化の有無、術後化学療法の有無、治療後卵巣予備能、治療後妊娠の有無、再発の有無などを調べ、主たる研究機関で統計的に解析いたします。

〔研究機関名〕 帝京大学(共同研究機関)、聖マリアンナ医科大学(主たる研究機関)、ほか

帝京大学における責任者：産婦人科学講座主任教授 綾部琢哉

〔個人情報の取り扱い〕 研究成果は、情報を匿名化し、主たる研究機関から学術目的として学会や学術雑誌に公表する予定です。患者さんの名前やカルテ番号等の個人情報が特定される情報は除かれています。主たる研究機関で多施設からの調査結果をまとめる際には施設名も匿名化され、全体として集計結果をまとめるため、個人の特定はできない状態となります。

主たる研究機関の情報管理責任者：鈴木直 聖マリアンナ医科大学病院産婦人科教授

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：綾部琢哉 帝京大学産婦人科学講座主任教授

住所： TEL：03-3964-1211（代表）〔内線 32616〕